與不用意何無差別、

以前雜事、書記如右、予十分未得其一端、然而常蒙先公之教、又訪古賢今粗知事要、依萬一之勤、雖非才智、已登崇班、吾後之者熟存此由、縱非如法、必以用意、可勤公私之事、

〔榮花物語八初花〕としもかへりぬ、寛弘七年とぞいふめる、○中略帥殿○藤原伊周はことしとなりては、いとゞ御心ちおもりて、けふやゝとみえさせ給、○中略御心ちいみじうならせ給へば、この姫君ふたところ藏人少將○道雅をなめすへて、北の方○重光女にきこえ給、をのれなくなりなば、いかなるふるまひどもをかし給はんずらん、世中に侍つるかぎりは、とありともかゝりとも、女御きさきと見たてまつらぬやうはあるべきにあらずと、おもひとりてかしづきたてまつりつるに、いのちたえずなりぬれば、いかゞし給はんとする、今の世の事とて、いみぢきみかどの御むすめや、太政大臣のむすめといへど、みなみやづかへにいでたちぬめり、この君たちをいかにほしと思ふ人おほからんとすらむな、それはたゞことゝゝならず、をのがためのするゑの世のはぢならんと思ひておとこにまれ、なにの宮、かの御かたよりとて、ことようかたらひよせては、こどの○伊周のなにとありしかば、かくるぞかしと心をつかひしかば、などこそはよにもいひおもはめ、母とておはするが、人はたこの君たちの有さまを、はかゝゝ云ううしろみもてなし給べきにあらず、まどてよにありつるおり、神にもをのがあるおりさきにたて給へと、いのりこはざるやらんと思ふがくやしきこと、さりとてあまになし奉らんとすれば、人ぎゝものぐるをしき物から、あやしのほうしのぐどもになり給はんずかし、あはれにかなしきわざかな、まちが云なんのち、人わらはれに、人のおもふばかりのふるまひありさまをきて給はゞ、かならずうらみきこえんとす、ゆめゆめまろがなからんよのおもてぶせ、まろを人にいひわらはせ給なよなど、なくゝ申給へば、大ひめぎみ、小姫君なみだをながし給もをろかなり、たゞあきれておはす、きたのかたもいら